

木を知り 個性を生かす 家具づくり

日本の森林率は、約67%。先進国の中でも、フィンランドに次いで第二位と、森林大国と言えます。しかしながら、木材自給率は約40%。一度人が手を入れた森は、伐採を含めた適切な管理を行わなければ、土地が痩せてやがて荒廃してしまいます。国産材の活用が進まない背景には、外国産材の加工のしやすさや価格競争力などがありますが、日本の森が多種・少量の木々で構成されていることも関係しています。南北に長い日本には約1200種の樹木が存在します。スギやヒノキの人工林以外の森では同じ樹種がまとまって生えていることは少なく、出材される樹木は種類も特徴も多様です。カリモク家具では、30年以上前からその課題に着目し国産材の活用に取り組んできました。



HISTORY

1940

初代社長加藤正平は
愛知県刈谷市に木工所を創業



2011

国産ナラを使ったコレクション
HARUを発表



HARU

2019

国産ナラを使ったコレクション
石巻工房 by Karimokuを発表



石巻工房 by Karimoku

1962

自社製品として
家具の生産・販売開始



1988

北海道とマレーシアに
資材工場を設立。
その後秋田と愛知にも
設立し、現在計4カ所



2009

国産広葉樹の小径木を
使ったコレクション
Karimoku New Standardを発表



Karimoku
New Standard

2021

国産ヒノキを使った
コレクション MASを発表



MAS

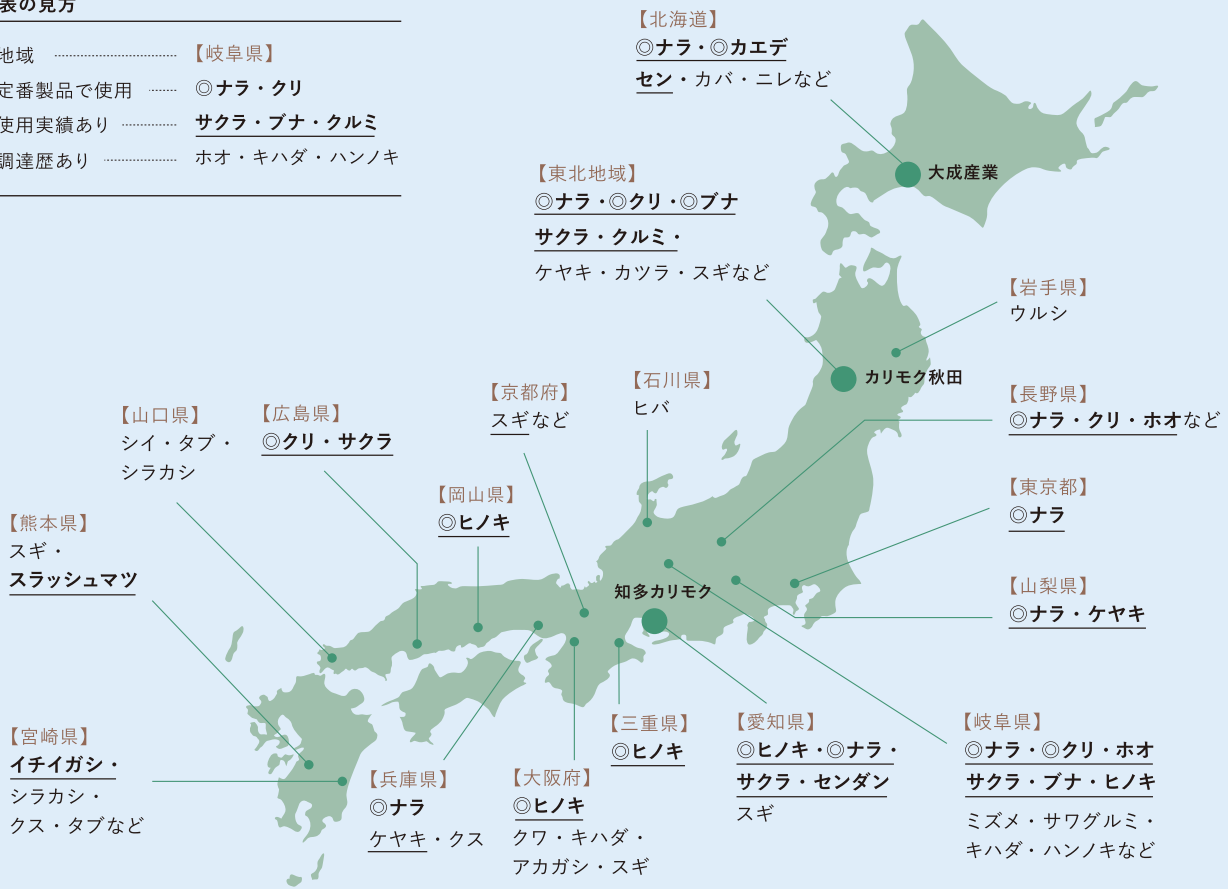
日本全国 30カ所の森で 約60種類の木材を調達。 乾燥から家具づくりまでを 一貫して行っています

調達している木材は家具に有用とされるナラ材やクリ材などがその多くを占め、カリモク家具の製品に多用されています。一方、一般的には家具づくりに不向きとされる木材も調達しています。たとえば、ヒノキなどの針葉樹や、丸太の末口径が25cm未満の「小径木」と呼ばれる木材がそうしたものです。同じ種類、一定の径級の木材を数多く仕入れたほうが生産性は上がります。しかし、それでは森の多様性を維持しながら持続的に家具を生産することはできません。「多様な木材から家具をつくる」ことが、私たち木製家具メーカーであるカリモク家具の考える「森との共存」のかたちです。

資材調達MAP

表の見方

地域	【岐阜県】
定番製品で使用	◎ナラ・クリ
使用実績あり	サクラ・ブナ・クルミ
調達歴あり	ホオ・キハダ・ハンノキ



各資材工場に
届いたら...



資材工場には天然乾燥中の
板材が積みあがっている



人工乾燥設備を
各資材工場に整備



入荷した板材を目視で確認し、
適材適所に仕分ける選別工程

TECHNIQUES

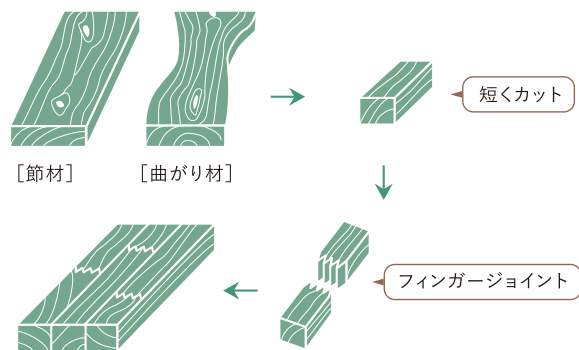
01 未利用材を使う

短尺材や端材を活かす「フィンガージョイント」

「フィンガージョイント」とは、材料を縦方向に継ぐ技術の一つで、接合面をジグザグに加工して接着することで安定した強度を保つことができる技術です。節が入っていたり、曲がっていたり、必要な長さが取れない木材の活用に用いられます。ジョイント部分の丁寧な加工は、意匠的な美しさをも兼ね備えます。

[使用コレクション]

Karimoku New Standard、石巻工房 by Karimoku など

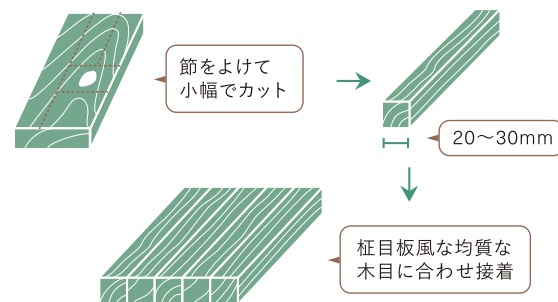


02 針葉樹を使う

針葉樹ならではの木目を生かした「小幅集成」

針葉樹は広葉樹に比べて木目がはっきりとした木材で、また節が大きいのも特徴です。一般的に好まれる、節がなく幅の広い無垢の板材を調達するのは容易ではありません。カリモク家具では節を避けて、小さな幅で木材をカットし、それらを再構成して一枚の柾目板のように仕上げ、家具部材として用いています。

[使用コレクション] MAS など



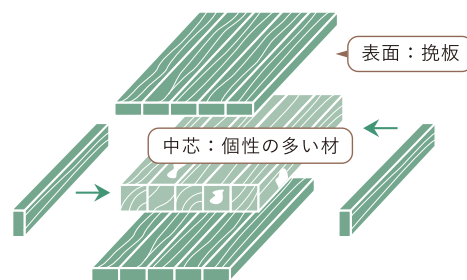
03 個性の多い材を使う

表面に薄い木材を貼る「挽板加工」

「挽板」とは木材を3mm程度に薄く加工したものです。節が多い材やシミの多い材などの個性的な材を中芯材にして、表面に仕上材として「挽板」を張り込むことで、無垢材本来の量感と巾ハギ材の質感を両立しています。木本来の価値をそのままに、かつ材料を有効に活用する技術です。強度担保や軽量化を目的とした異樹種接着にも取り組んでいます。

[使用コレクション]

Karimoku New Standard、Karimoku Case Study、石巻工房 by Karimoku、MAS など



小さくても、曲がっていても。
木の個性を生かした
家具づくりに挑みつづける

全国各地から調達した木材の中には、針葉樹をはじめ、加工に手間がかかる小径木、曲がり材、虫食い材、そして、柔らかく家具づくりに不向きな広葉樹材など、実にさまざまな木材が存在します。それらを、カリモク家具の高い加工技術とデザイナーたちのクリエイションを掛け合わせ、ウィークポイントから「個性」へと変換し、人々の暮らしを支える家具として世に送り出しています。

WORKS



ブルーボトルコーヒー神戸阪急カフェ

納品年：2022年
納品したコレクション：石巻工房 by Karimoku
使用樹種：コナラ（兵庫県産）



地域材の有効活用の為、一部の家具に、神戸市産のコナラを使用しており、材の乾燥からプロダクト製作まで行いました。温もりを感じるカリモク家具のプロダクトが、来訪者を温かく向かい入れ、コーヒーと共に寛ぎの時間を提供します。



益城町役場

納品年：2023年
納品したコレクション：石巻工房 by Karimoku/MAS
使用樹種：スラッシュ松（熊本県産）



「サントリー天然水の森 阿蘇」の育林材であるスラッシュ松を使用し、展望ロビーの家具を製作しました。益城町では固有生態系の保護を固有生態系の保護を考慮して外来種でもあるスラッシュ松を伐採し、林床を明るくして森林の健全な更新を促進しています。また、このプロジェクトでは森林環境譲与税を活用し、国産木材の普及啓発にも取り組んでいます。



角文株式会社

納品年：2022年
納品したコレクション：karimoku
使用樹種：ヒノキ（施主支給）



本社応接室リニューアルに際し、足助町の社有林から伐採したヒノキを活用して家具を作りたいとのお話からプロジェクトがスタート。提供いただいたヒノキを製作しました。広葉樹に比べて、強度や表面硬度が低い針葉樹のヒノキならではの課題を加工技術と構造の工夫によってクリアし、木肌の美しいヒノキの特長を引き出した家具が生まれました。

MAINTENANCE



詳細はこちら

木製家具は、修理やパーツ交換によってリフレッシュのできる製品です。天板の補修や張地の張り替え・クリーニングなど、全国をカバーするサポート拠点を通じて、長く安心してお使いいただける体制が整っています。



お問い合わせ

